

Title	Vector 値集合関数ノ Radon-Nikodym 型定理ニ就イテ
Author(s)	小笠原, 藤次郎
Citation	全国紙上数学談話会. 235 p.1014-p.1018
Issue Date	1942-04-16
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74973
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1041. Vector 値集合函数 / Radon-Nikodym 型定理ニ就イテ

小笠原 藤次郎 (廣島文理大)

作用素表現論へ、應用ヲ目的トシテ Banach 空間ヲ値
域トスル 強有界変動完全加法的連續集合函数ト Bochner 積
分ノ意味ニ於テ可測集合函数、不定積分トノ關係ニツイテ論ズ
ル。具体的空間、線型作用素ノ核表現ヘ、應用ハ他ノ機會ニ
於テ述ベル。

§1. Banach 空間論ニ於テハ特ニ複素 Banach 空
間論ヲ目的トスルモノハ極メテ少イ。ソレハ複素 Banach
空間ソレ 自体が實 Banach 空間トシテ考察サレルコト、實
Banach 空間ノ定理ハ多クハソノ証明ノ必要ナ修正ニ依ッ
テ複素 Banach 空間ニ於ケル對應定理トナルコトニヨル
ト思ハレル。其ノ限界ヲ明ニスルコトハ無駄ナ努力トハ思ハ
レトイカ鬼ニ角放置サレタマコトアル。茲ニ於テ以下ノ §ヲ
表レル概念ニツイテニノ注意ヲ加ヘヌイ。乙ヲ複素 Banach
空間トシテ實 Banach 空間トシテ考察スルトキ X ヲ
表ス。從ツテ \bar{Z} ハ Z ノ線型汎函数ノ複素共軛 Banach 空
間ヲ \bar{X} ハ X ノ線型汎函数ノ實共軛空間ヲ表スコトニナル。
コノトキ次ノ命題

- (1) Z ハ weakly complete デアル。
- (2) Z ハ locally weakly compact デアル。
- (3) \bar{Z} ハ locally weakly compact デアル。

(4) Z は regular テアール。

ハ夫々ニ於テ Z ヲ X ヲ置換シテ得ラレル命題ト對等デア
ル。(2) ト (3) ハ對等ナ命題デアリ、(4) が成立スルトキ (2)
が成立スル。可分ナ Z ニツイテ (2) が成立スルトキ (4) が成
立スル。尚 *Idelly* / 定理, 線型作用素トソノ共軛作用
素ニツイテ 弱完全連続ノ双對性等が成立スル。從ツテ記述ヲ
簡單ニスル点カラ 集合函数ノ 値域ヲ実 Banach 空間トシテ
可ナルコトが知ラレル。

S ヲ抽象集合, γ ヲ S ヲ含ム S ノ 部分集合ヨリナル
Borel 族, $\mu(E)$, $E \in \gamma$ ヲ γ 上ノ 非負完全加法的集合函
数 (或ハ 測度函数) トスル。以下ニ於テハ $\mu(S)$ ヲ有限トシ
テヨイ。何者 S が有限測度ノ可附番可測集合ノ和トシテ表
セラルトキ本質的ニ S が有限測度トシテ論ズレバ充分デア
ルカラ。

§2. X ヲ Banach 空間トシ $F(E)$, $E \in \gamma$ が X
ノ 値域トスル γ 上ノ 完全加法的集合函数トスル。モシ
 $\mu(E) = 0$ ノトキ常ニ $F(E) = 0$ トナルトキ $F(E)$ ハ $\mu(E)$
ニ因シテ 全連続或ハ 單ニ全連続トイフ。

定理1. X が regular ノトキ μ ニ因シテ全連続ナ
完全加法的集合函数 $F(E)$ ハ 強有界変動ノトキ Bochner
積分ヲ, 不定積分デアール。

定理2. 定理1ハ “ X が regular” ノ代リニ “ X が
locally weakly compact” トシテモ成立スル。

(注意) 定理2ハ定理1ノ拡張デアルカラ 定理2ヲ証明

スレバ充分。 $F(E)$ が可分値函数の場合ニハ既ニ Dunford-Pettis (Trans. Amer. Math. Soc. 47 (1940) 323—392). Phillips (A 48 (1940) 516—540) が本質的ニ証明サレル。

能ッテ定理 2 の証明ハ $F(E)$ が可分値ナルコトヲ証明スレバ充分デアル。

(注意) $X =$ 假定ヲ置ク代リ $= \left\{ \frac{F(E)}{\alpha(E)} \mid E \in \mathcal{E} \right\}$ が conditionally weakly compact トシテモヨイ。

(注意) $X =$ 定理ノ假定ノ代リ $= \{F(E) \mid E \in \mathcal{E}\}$ ヲ含ム最小ノ部分開空間ノ determining manifold Γ が可分且ツ $\Gamma =$ 開シテ X が locally weakly compact 換言スレバ X が可分空間ノ共軛空間トナツテキルトキハ一般ニハ Bochner ノ不定積分ニハナラナイガ此ノ場合ニハ Dunford-Pettis (上掲論文) が論ジテキル。

定理 2 ノ証明. $\|F(E)\| \leq \alpha(E)$ ノ場合ヲ証スレバ充分。何者 $\sigma(E)$ ヲ E 上ニ於ケル $F(E)$ ノ強全変分トスレバ $\|F(E)\| \leq \sigma(E)$ が成立スル。コノトキ $F(E) = \int_E x(\lambda) d\sigma$ トナツタトスル。一方 $\sigma(E) = \int_E \alpha'(\lambda) d\alpha$ トカクレルカラ $F(E) = \int_E \sigma'(\lambda) x(\lambda) d\alpha$ トナリ $\sigma'(\lambda) x(\lambda)$ ノ代リニ新ニ之レヲ $x(\lambda)$ ト書クトキ $F(E) = \int_E x(\lambda) d\alpha$ トナル。故ニ上ノ假定ヲ置ク。 $\alpha =$ 何レテ可積分実函数ノ作る L 空間ヲ $L(\alpha)$ トスルトキ

$$U_g = \int g(\lambda) dF, \quad g \in L(\alpha) \quad \text{トスレバ}$$

$U \subset L(\mu)$ 、単位球 \mathcal{X} 、単位球の部分 = 移スカラ U は弱完全連続、従って $L(\mu)$ 、weakly compact set \mathcal{X} 、compact set = 移ス。(Phillips, 上掲論文定理 5.5)
然るに ν = 可測集合の特性函数、全体 $L(\mu)$ が weakly compact. 従って $\{F(E) \mid E \in \mathcal{X}\}$ は compact (compact は conditionally の意である) 即ち $F(E)$ は可分値函数トナル。従って上、注意カラ成立スル。

(注意) L 空間ヨリ任意 \mathcal{X} へ、弱完全連続作用素、可分値トナルト及ビ ν の積分表現を同様、考へ方カラ得ラレル。

(注意) Bochner-Taylor, vector 値函数空間、理論ガ抽象集合 S 上デ展開サレル。Bochner-Taylor (Annals of Math. 39 (1938) 913-914) 國澤 (學士院記事 16 (1940) 68-72)

§ 3. 定理 2 の別証明.

μ = 閉シテ可積分実函数ノ作ル L 空間ヲ $L(\mu)$ トスル。
 $f \in \overline{\mathcal{X}}$ トシテ $f(F(E)) = \Phi(E) = \int_E \varphi(\lambda) d\mu$ ト書ク。 $\overline{\mathcal{X}}$ ヨリ $L(\mu)$ へ変換 $f \rightarrow \varphi(\lambda)$ は Kantorovitch、 H_b^0 = 属スル何者 $\|f\| \leq 1$ ノトキ $|\Phi(E)| \leq \sigma(E)$ が成立スルカラ。 $\overline{\mathcal{X}}$ は locally weakly compact 従って $\overline{\mathcal{X}}$ の単位球ノ像ハ compact. 故ニ φ の可分集合ヲ作ル。従って μ = 閉シテ可分 \mathcal{X} の部分 Borel 族 \mathcal{X}' が存在シテ φ は \mathcal{X}' = 閉シテ可測トナル。 $F(E)$ は \mathcal{X}' 上デ可分値函数、従って \mathcal{X}' = 閉シテ可測ト函数 $x(\lambda)$ が存在シテ $E \in \mathcal{X}'$ ノトキ $F(E) = \int_E x(\lambda) d\mu$

トナル。コノ式が任意ノ $E \in \mathcal{Y}$ = 對シテ成立スルコトヲ証明スレバヨイ。

$$E \in \mathcal{Y} \text{ ノ トキ } \int_E f(x(\lambda)) d\lambda = f(F(E)) = \int_E \varphi(\lambda) d\lambda \text{ コリ}$$

$f(x(\lambda))$ ト $\varphi(\lambda)$ ハ null set ヲ除イテ一致スル。從ツテ

$$\text{任意ノ } E \in \mathcal{Y} = \text{ニ イテ } \int_E f(x(\lambda)) d\lambda = \int_E \varphi(\lambda) d\lambda. \text{ コノ式}$$

$$\text{ヨリ } f(F(E)) = f\left(\int_E x(\lambda) d\lambda\right) \text{ 即チ } F(E) = \int_E x(\lambda) d\lambda \text{ ト}$$

ナル。